

夕刊 読売新聞

2019年(令和元年)

8月10日 土曜日

日を大切に	3	おいしい/小説	2
議中止示唆	3	総合/スポーツ	3
男からネタ	9	@CARS	4
新治療法	10	ジュニア 5	遊 7
齢化進む	11	文化 9	からだCafe 6
		商況	8 9

発行所 読売新聞東京本社 〒100-8055 東京都千代田区大手町1-7-1 電話(03)3242-1111(代) www.yomiuri.co.jp

水の都へ



東京都新宿区内にある外濠。流れがほとんどなく、水がよどんでいる

清きお濠に

東京都は、水質悪化が深刻化している皇居(千代田区)の外濠と内濠に、江戸時代に作られた水道「玉川上水」をおよそ半世紀ぶりに接続させ、抜本的な浄化に乗り出す方針を固めた。都は2020年東京五輪・パラリンピック後の都市計画として「水の都構想」を掲げる考えで、その中核事業とする。

玉川上水は1653年頃、江戸の町に多摩川から水を供給するため、幕府が現在の東京都羽村市・新宿

区間の約43キロにわたって造成。外濠や内濠にも流れ込んでいる。その後も新宿区の新宿区役所を流れて水道水などとして利用されてきた。だが、1965年に淀橋浄水場が東村山市に移転したことで、多摩川からの取水は東村山市浄水場に送られるようになった。東村山への分岐点から杉並区までの中流部は、水辺の景観保全事業の一環で、下水をオゾンなどで高度処理して有害物質を取り除いた再生水が少量流れ、神田川に抜ける。杉並から終点の新宿・四谷大木戸までの下流部は地下水路となっているが、流れはほぼなく、かつて外濠や内濠まで通っていた水路は使われていない。

そこで都は、玉川上水の活用について検討を開始。既存の水路改修に加え、外濠につながる約2キロの導水管を新設するなどし、中流部からの再生水の流量を増やして外濠に送ることを柱とする計画が固まった。再生水が外濠に流れ込めば、外濠につながる神田川の浄化効果も期待できる。四谷から約3キロ離れた内濠にも新たな導水管で水を流す考えで、内濠を管理する環境省と協議を進める。

都は2020年大会に向け、「水の都構想」を打ち出す考えで、日本橋川の上流部から首都高の地下化工事や、選手村がある中央区の晴海地区と日本橋とを船で結ぶ「舟運」も計画されている。都は、玉川上水の活用と浄化事業を構想の中核に位置づけ、「環境先進都市」としての国際競争力の強化や、さらなる

玉川上水から再生水



玉川上水の中流部。下水を高度処理した再生水が流れている(東京都杉並区で)

玉川上水を活用した皇居外濠・内濠の浄化事業



都、導水管で接続 五輪後に着手

北、また短距離弾2発

日本海へ7月以降5回目発射

【ソウル=水野祥】韓国軍合同参謀本部によると、北朝鮮は10日午前5時34分頃と午前5時50分頃、東部

威鏡(威鏡南道威鏡)一帯から日本海に向けて飛翔体を1発ずつ発射した。韓国大統領府は「短距離弾道ミサイル」と判断した。

北朝鮮による短距離弾道ミサイルなどの発射は7月25日以降、5回目となる。韓国軍合同参謀本部によると、今回は高度約48キロ、飛行距離は約400キロだった。米韓軍は5日に合同軍事演習を始めており、20日まで行っている。11日に朝



な笑顔だった。お菓子をつまみ無邪気な表情でラウンドするら、「スマイリング・シンデ」
と称された渋野選手は、一回っていた選手のプレーが終りを待つ間に偉業を実感し始よう。「やっちゃったわー」が立ったかのように、両腕を

読売新聞社 電話69650-99 Printed in Japan

国立天文台 国察チーム

都、国際競争力強化へ

長期計画たたき台 少子化対策、防災など

都は22日、2040年代までの都政の基本方針となる長期計画のたたき台『未来の東京』への論点を公表した。東京が目指すべき将来像として、国際競争力の強化や少子高齢化からの脱却などを示した上で、出生率の回復や無電柱化の実現、羽田空港の機能強化といった具体的な施策目標を盛り込んだ。都は年内に長期計画の素案をまとめ、20年東京五輪・パラリンピック後に正式決定する方針。

年内素案、五輪後決定



▲長期計画の策定に向けた会議に臨む小池知事(22日、都庁で)

たたき台では、技術革新や産業構造転換の遅れによって経済が停滞し、国際競争力が失われつつある現状を指摘。少子高齢化が進む東京でも25年の1417万人をピークに人口が減少に転じると試算し、これらの課題を解決するために東京が実現すべき施策や目標を

幅広く提示した。

子育て・勤労分野では、1人の女性が生涯に産む子どもの数を示し、過去に1・00まで低下した合計特殊出生率について、人口の維持に必要とされる2・07まで引き上げる。子育て施設の増設などにより待機児童も解消するとした。職場以外で働くテレワークにより、出社が週1日だけとなる働き方改革も推し進める。

防災面では、都内全域で電柱を撤去するとともに、災害時の被害が想定される木造住宅の密集地域も再生する。自動運転車や「空飛ぶ車」などを普及させることで、高齢者の事故防止や交通・物流網の発展につなげる。環境施策も重視し、玉川上水や河川の清流復活、皇居外濠の水質浄化も

都が示した2040年代の東京のイメージ

子育て	合計特殊出生率2.07を回復。「待機児童」も死語に
女性活躍	政治家や企業トップの半数が女性
高齢者	平均寿命が90歳超。定年制もなくなる
働き方	テレワークが普及し、出社は週1日に
防災	電柱が姿を消す
犯罪・事故対策	犯罪予測にAIを活用。自動運転車も普及
交通ネットワーク	羽田空港は機能拡大し、ビジネスジェットの発着枠も確保
先進技術	空飛ぶ車や遠隔医療、キャッシュレス化が実現
環境	玉川上水などの清流が復活し、皇居外濠の水質改善
温暖化対策	水素社会到来。二酸化炭素の回収、吸収技術も

実現させる。次世代エネルギーとして有望な「水素社会」や二酸化炭素の回収、吸収技術などの導入も目指す。

国際的な航空需要の伸長に対応するとともに、企業経営者らが利用するビジネスジェットの利用を拡大するため、羽田空港の機能強化の必要性も指摘。次世代通信規格「5G」や人工知能(AI)、ICT(情報通信技術)などの先端技術を導入し、教育や医療、治安から経済までの様々な分野の変革も主導する。

この日、小池知事は論議の整理のために都庁で開かれた会議に出席後、報道陣に「東京のあるべき姿を考えていかなければ、世界から取り残されてしまう」と述べ、都民らの意見も踏まえて長期計画づくりに取り組む姿勢を示した。